

# ST コース集会 『ST コースとは』

特進 ST コースの保護者の皆様、日頃より本コースの教育活動にご理解とご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。9月までは校舎リニューアル工事の関係で大人数を収容する部屋が取れなかったため、この時期になって今年度初となりましたが、2学期中間考査最終日の10月16日に、1年生から3年生までの全 ST コース生が揃った ST コース集会を開きました。そこで、コース主任から『ST コースとは』について、以下の3つのキーワードを使って話をさせていただきました。

1. 『明るく、清く、凛々しく』
2. 『主体性をもって多様な人々と協働する態度』
3. 『幸せになるためには、社会的に成功するための努力をするよりも、やさしい人になる努力をするほうがはるかに有効である。』

今回のコース通信では、この ST コース集会のことを中心に報告させていただきます。

特進 ST コースは、さらなる難関大学合格を目指すコースとして平成 20 年に新設され、平成 27 年度の新入生が第 8 期生となります。現在のところ 4 年連続で筑波大学に合格者を出していますし、福島県立医科大学の医学部医学科や横浜国立大学などの難関国公立大学、早稲田大学や明治大学などの難関私立大学にも進学しています。昨年度卒業の第 5 期生は、8 割以上の生徒が国公立大学合格を果たし、ST コースだけで見れば、進学実績は日立一高や茨城キリスト教高校以上、**茨城県北一**といえます。

しかし ST コースは、進学実績だけを誇るコースではありません。今までの卒業生は、この学び舎での 3 年間で様々なことに取り組み、大きく成長して巣立っていきました。彼らであれば、この先の人生の中でもどんな苦境にも負けずに、日本や世界の平和と発展のために活躍してくれるであろうと確信できます。確かにより良い環境で学ぶことのメリットは大きいですが、難関大学合格自体が生徒達の本当の夢でもなければ、それがゴールでもありません。その先がさらに大事なわけですから、コース集会の中でも在校生達には、難関大学合格を目指す中で**どのように振る舞い、どのように成長していくのか**を考えていこうという話をしました。その先にあるものを追求する姿勢や取り組みが、結果的に難関大学合格・進路実現にもつながっていきます。

また、ST コース生だけが特別こうしなければならない、というわけではありません。ST コース生であるという自覚と誇りを持ってもらいたいとは思いますが、他との相対化に基づいて差別化するのではなく、ST コースが明秀日立であり、ST コース生が日本の高校生である、という視点が必要だと思います。その中で「明秀日立生とは」については、もう明確に示されています。建学の精神『**明るく、清く、凛々しく**』です。これを 1 つ目のキーワードとしました。ST コース生は特にこの言葉に込められた想いを考え、より高く実践していく意識が必要だという話をしました。

## これからの社会で求められる力

次に「高校生とは」について、現在進められている「高大接続改革実行プラン」のことから話しました。「センター試験がなくなる」というようなことがクローズアップされて報道されていますが、現在進められているのは単なる入試改革ではなく、高等学校教育、大学入学者選抜、大学教育を三位一体で改革することを目指したものです。ここで気をつけていただきたいのは、現在の大学入試センター試験に代わって「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」が実施されるのは平成 32 年度、現在の中学 1 年生からですが、**各大学の個別試験に関しては平成 27 年度、つまり今の 3 年生の受験から可能なものは随時実施していく方針**だということです。よって、今の高校生にとっても、これからの社会で求められる力、大学入試で問われる力について、意識して

取り組んでいくことが必要です。

その「高大接続改革実行プラン」の中では、学力を「社会で自立して活動していくために必要な力」という観点から捉え直し、「本プランにおいて重視する視点」の中で、「**学力の3要素**」を次のように説明しています。

高等学校教育、大学教育、大学入学選抜を通じて、

- ① 「**知識・技能**」のみならず、
- ② 「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探求し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力」（「**思考力・判断力・表現力**」）や
- ③ 主体性をもって多様な人々と協働する態度（「**主体的・多様性・協働性**」）などの真の学力の育成・評価に取り組むこと。

私はこの中でも、思考力・判断力・表現力等の能力の基となる『**主体性をもって多様な人々と協働する態度**』がより重要だと思い、2つ目のキーワードとしました。特にカナダへの修学旅行は、その実践に最適な場です。しかし修学旅行を単発な行事と捉えてしまうのではなく、普段から意識してこそ、この機会を十分に生かすことができます。自分とは異なった文化や考え方を持つ人を受け入れるという考え方は、何も海外の方と接する時のみ必要なものではありません。国内においても、また同じ教室内においても、人の習慣や考え方は様々です。協働の精神が、自分自身の視野や世界観を広げることにもなり、真の学力につながります。

最後に、STとは、明秀生とは、高校生とは、をどんどん発展させていけば、「人として」というところに行き着きます。そこで私が最近読んだ本のこの言葉を、3つ目のキーワードとしました。『**幸せになるためには、社会的に成功するための努力をするよりも、やさしい人になる努力をするほうがはるかに有効である。**』経験や視野がまだ十分ではない高校生がこの言葉にどれほど感じるかは分かりませんが、私ははっとさせられました。いい大学に入ることや、一流企業に就職すること自体が幸せなことではありません。難関大学を目指す力があるSTコース生だからこそ、自分の力を生かして将来どのように社会貢献していくのかを考え、他者との関わりの中で、自分も周りの人も幸せを感じられる社会の実現を目指して欲しいと思っています。

以上の3つのキーワードは、私の中でははっきりとつながっています。そしてこれは、私の独り善がりな考え方ではなく、今までのSTコース生の活躍や成長の過程を見て感じていることでもあります。在校生達には、是非この伝統を受け継ぎ、さらに発展して欲しいと思います。

## ST コースのアクティブ・ラーニング

さらに改革プランの中では高等学校教育の改革については、「高等学校における学習・指導方法について、**言語活動の積極的な導入をはじめ、生徒が受け身でなく主体的・協働的に学ぶことを促す方法**へと進化を図る。」とあります。STコースにおいて、英語科を中心に行われているアクティブ・ラーニングは、まさにこの方向性に即した取り組みと言えるでしょう。ここで、現3年STコース生を対象にした、英語のアクティブ・ラーニングについてのアンケート結果から、生徒達の意見を一部ご紹介します。

- ・ 自分で考えているという実感がわく。
- ・ 席移動によって、普段あまり話をしないいろいろな人と話ができる。コミュニケーション力をあげることができる。
- ・ 人に説明できるだけの知識が必要になるため、みんなを納得させるために詳しく調べ、自分の英語力も向上させられる。
- ・ 1つの問題を議論する中で、自分の知らないことをたくさん発見できる。

さすが3年生ともなると、こちらが説明しなくてもこういう活動の意義や効果をしっかりと体感しているようです。私はSTコース生には「**世界中の人々とコミュニケーションを取れる人**」になって欲しいと思っています。そのためには語学力はもちろんのこと、世界や日本の文化・歴史や自然等についての幅広い知識、そして他者を思いやる心や受け入れられる心の広さ・大きさ、協調性・コミュニケーション力等が必要となります。

今後もSTコースでは生徒達の進路実現、難関大学合格にこだわって指導をしていきますが、生徒達には**なぜそれを目指すのか、その先にあるものを考えて**日々の生活を送ってもらいたいと思います。今後ともご理解ご協力をお願いします。